

第 11 回： 豊かな海の恩恵を支える森と川

開催日： 2002 年 8 月 30 日 / 会場： 「北とぴあ・飛鳥ホール」

開催趣旨： 総合学習で子供たちを始め多くの人々に知ってほしい内容をわかりやすく解説します。ここでは食糧問題に関連させた海を巡る事項を取り上げます。21 世紀の人類共存の鍵は「食糧」と言われます。日本の海の幸の現状やそれを支える森や川はどうなっているのでしょうか？また、それらを妨げる事象のトピックスについて、主に首都圏の市民に知ってもらいたい内容に絞って話題を提供します。

講演タイトル（講師／所属（当時））：

○日本の食を支える海の現状（宇賀神義宣／(財)漁港漁村建設技研）

日本人の食生活における栄養源としての魚の役割や漁場としての沿岸域の現状の問題点を解説し、自然と共生する環境創造型水産基盤整備事業について論じる。

○海の豊かさを支える森の働きと課題 — 漁師による森づくり 木を植えて魚を殖やす —（柳沼武彦／(社)海と渚の環境美化推進機構）

北海道において昭和 63 年から実施されている漁業者主体による「お魚殖やす植樹運動」の活動を紹介し、その背景や目標および意義について論じる。また全国各地における漁業者による植樹運動や、今後の活動あたっての課題につき述べる。

○海の豊さを支える川の働きと課題 — 海の恵みはどこで作られるのだろう —（高崎みつる／石巻専修大・理工）

海の豊かさを海産物と定義し、河川から海に流入する物質のうちケイ酸、窒素など海の生産を支える主な要因について解説する。

○豊かな海を妨げるもの — 流域からの有害物質流入（佐々木裕子／東京都環科研）

有害化学物質と水生生物とのかかわりを紹介する。PCB やダイオキシン類等の難分解性の汚染物が河川から湾に流入して沿岸部に堆積し、《水—プランクトン—底生生物／小魚—アナゴ、スズキ》といった食物連鎖で、魚介類は水環境の汚染の影響を受ける。また、堆積底質の PCB やダイオキシン類濃度は 1970 年代がピークで、PCB 製品や農薬(PCP,CNP)由来の影響について論じる。

○川の流れを妨げるもの — 魚の溯上を阻む水無し区間（大熊孝／新潟大・工）

川は水循環を担うだけでなく、地球の物質循環の一翼を担っており、人間はその川沿いに文化を形成している。ダム建設による川の環境改変が魚の生息場や物質循環に与える影響を踏まえた上で、今後の利水・治水のあり方を探る。